

今月のイチ押し

商品紹介

ここがGOOD!



- ★北海道のおいしいお米を厳選
- ★農家の顔が見える特別栽培米
- ★主食にふさわしい手頃な価格



おいしさと買いやすさを実現

ムソー特別栽培米

平成26年度産



さらに安全 にステップアップ

平成25年度産

一昨年までの

ミツバチの生

新篠津村クリーンあやひめ生産組合 (北海道石狩郡新篠津村)

農薬7割減、化学肥料5割減

新篠津村は安心安全な農作物作りを行っている生産者が大変多い村です。「野菜、米作りの基本は土づくり」をモットーに、有機JAS品からEM農法まで実践する農家・農業法人が、村をあげて良質でおいしい農産物作りに取り組んでいます。代表の井伊秀一さんはまだ若い生産者で、特別栽培米のかたわら花、大豆、小麦を生産している意欲的な農家です。

品種 あやひめ



小林邦弘さん (北海道夕張郡長沼町)

農薬8割減、化学肥料5割減

長沼町は北海道有数の穀物地帯、米どころです。その中でも小林さんの田んぼがあるマオイ地区は特に食味の良い地区といわれています。小林さんは消費者の要望に応え、玄米を鮮度よく保管できるモミ貯蔵施設や、着色米の混入を避ける色彩選別機を導入。特別栽培米に関しては除草剤のみ使用し、自然の力を最大限に引き出したお米を生産しています。

品種 ゆめぴりか



おいしさにびっくり! 北海道米

ここ数年、首都圏や関西圏でも北海道米の人气が高まっている理由は、そのおいしさにあります。品種改良が次々に行われ、「ななつぼし」「ゆめぴりか」など、新たなブランド米も続々誕生しています。

ななつぼし

つや、粘り、甘みの
バランスが魅力

つや、粘り、甘みのバランスが絶妙で、冷めてもおいしさが長持ち。弁当、寿司などに人気です。食味ランキングでも特A評価。北海道の稲作生産を担う重要な品種としてデビュー以降、作付・販売量も上昇中。ますます期待が高まる品種です。

あやひめ

玄米食に最適、
炊飯器でも炊けます

粘りのよい低アミロース品種。白さ、おいしさ、収量性などに優れ、北海道のブランド米「げんきぼし」に主に使われます。粘りがとても強く、たいへん柔らかいので玄米食に最適。圧力釜でも炊飯器でもおいしく炊けます。

ゆめぴりか

首都圏でも高評価、
北海道の最高峰米

食味特A評価の期待の北海道米。ほどよい甘みと粘り、炊きあがりの美しさ、生産者が結束して守る品質の高さ。試食調査では首都圏をはじめ全国で、数あるブランド米を差し置いて「最もおいしい米」に選ばれました(2009年)。

新米

北海道で安心安全な米作りに取り組む4つの生産者団体を厳選、それぞれが一押しするおいしい品種を出荷していただきます。いずれも地力を活かし、環境への負荷をできる限り低減した栽培方法による「特別栽培米」です。なるほど納得の味と、お求めやすい価格を実現。これまで慣行栽培のお米を買っていた方にも広くおすすめできます。



慣行栽培から農薬(殺虫剤・殺菌剤)の使用成分回数をさらに減らし、

「農薬5割～8割減」から「農薬7割～8割減」にステップアップ。

特に悪影響を及ぼすとされるネオニコチノイド系農薬は、ムソーの指導で今年も使用していません。



小森正俊さん (北海道滝川市江部乙町)

農薬8割減、化学肥料6割減

横浜市で会社勤めをした後、30歳で故郷にUターンして代々の農家を継いだ小森正俊さん。就農直後から農薬削減に意欲的に取り組み、2007年から特別栽培米を出荷し始めました。畑作では小麦、菜種、大豆などを輪作し、健全な土壌づくりを心がけています。

品種 **ゆめぴりか**



芦別市きらきらぼし生産組合 (北海道芦別市)

農薬8割減、化学肥料5割減

森林面積が9割を占める芦別市は水源に恵まれ、環境省の「星空の街」にも認定された空の美しい町。1995年に芦別市の中山間地に誕生した同組合は、30戸の小集団ながら、農薬を大幅に抑えた先進的な栽培技術では道内トップクラス。畦にミントを植えてカメムシを防ぎ、地元子どもたちと田んぼの生き物調査にも取り組んでいます。

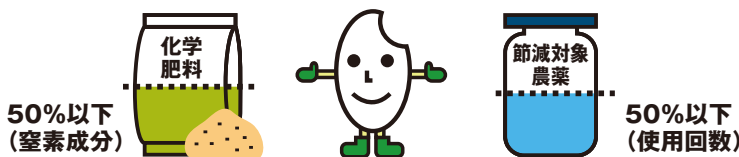
品種 **ななつぼし**

●特別栽培農産物とは

その農産物が生産された地域の慣行レベル(各地域の慣行的に行われている節減対象農薬及び化学肥料の使用状況)に比べて、

節減対象農薬^(※1)の使用回数^(※2)が50%以下

化学肥料の窒素成分量が50%以下で栽培された農産物です。



節減対象農薬と化学肥料双方の節減が必要です。なお、節減対象農薬を使用しなかった場合、「節減対象農薬：栽培期間中不使用」の表示になります。

(出典：農林水産省「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインパンフレット」より)

※1：平成19年4月に改正された「特別栽培農産物表示ガイドライン」において、「節減対象農薬」とは、従来の「化学合成農薬」から「有機農産物のJAS規格で使用可能な農薬」を除外したものと定められました。

※2：上記でいう「使用回数」とは「成分使用回数」を意味します。例えば農薬商品名「バンチャーフロアブル」という除草剤には有効成分として「ベンゾフェナップ」「フェントラザミド」「ベンフルレソート」の3成分が含まれており、この除草剤を1回使用すると成分使用回数は3回とカウントされます。

●慣行レベルの設定方法

慣行レベルは、地方公共団体が策定または確認した透明で公正な基準を、節減割合の算定の比較基準とします。また、地方公共団体が慣行レベルを策定または確認した場合は、その内容を公開します。

ムソー特別栽培米の生産地・北海道における、水稻(うるち・移植)の化学合成農薬【節減対象農薬】の慣行レベルは22成分使用回数です。同じく北海道における水稻の化学肥料の慣行レベルは10kg/a(窒素成分量)です。

したがって、北海道の水稻(うるち・移植)で特別栽培米を名乗るには、節減対象農薬を11成分使用回数以下に節減し、かつ、化学肥料の窒素成分量を5kg/aに節減する必要があります。